



2025 6/12(木) 13(金) 14(土) 15(日)

KEIRIN-JP 四日市 四日市 四日市 四日市

瀬瀬洗翔が軸の中部勢

同日日程で開かれる富山G3と昼夜リレー形式でつなぐ大阪・関西万博協賛・四日市G3ナイター「ベイサイドナイトドリーム」は、6月12日～15日の日程で開催される。3月大会に続いて実施される「ベイサイドナイトドリーム」は高松宮記念杯直前の開催のためビッグネームの名前は見当たらないが、逆に上位陣は誰にも勝ち上がって優勝のチャンスがありそうで目が離せない。地元の谷口遼平、ヤンググランプリ覇者の瀬瀬洗翔、売り出し中の栗山和樹と中部の機動型が充実しているが、一筋縄ではいきそうにない。また、ガールズケイリンが3レース4日制で行われる。こちらにもパイルカップ出場組が不在で接戦ムードだ。

直近4カ月の競走得点最



瀬瀬洗翔

上位者が110点台の瀬瀬洗翔という稀に見る大混戦のシリーズだ。思わぬ伏兵の台頭があつても不思議ではないし、V候補は十指に余るが、瀬瀬を筆頭に、栗山和樹、谷口遼平と機動型が充実している。中部勢がV争いの中心勢力となりそう。暮れのヤンググランプリでナショナルチームメンバーの太田海、中野慎らを倒して頂点に立った瀬瀬がやはり本命には最も相応しいか。今年に入ってから落車が続きなど順調とはいえないものの、5月武雄G3では



栗山和樹

①③④着。初日特選は突っ張り先行の北津留翼の番手に追い上げる形から勝っており、改めて自力基本に攻め幅の広さをアピールした。中部は機動型が充実しているのでもろって勝ち上がった場合の出方は流動的ながら軸になるのは瀬瀬だろう。注目度では栗山も負けていない。本格デビューから僅か7カ月となる2月にS級に特進した期待のホープ。S級でも順調に出世階段を駆け登っており、4月川崎記念では二次予選で浅井康も振り切る快速まくりを決めて準決進出、5月奈良ではS級初優勝を遂げた。ここまで唯一結果を出せなかったのが怪我明けで走った4月当所だったのでも、その分も中部の大砲としてラインを上位独占に導く。地元では谷口遼、柴崎俊光にV争いの期待が掛かる。谷口遼は瀬瀬に前を任せたいこともあるように、これも瀬瀬や栗山と同乗なら後位を回って結果追求の走りとなろう。

中部勢を止めるなら、林大悟、嶋田誠也、柳詰正宏とそれぞれの役割がしっかりとっている福岡勢だ。林は5月岸和田で完全優勝を果たしたばかり。初日特選、決勝は岩谷拓の番手を回っての



林大悟

結果だったが、準決は豪快にまくって嶋田とワンツーが決まっている。最終的に林が主導権を握る可能性は十分だけに、嶋田、柳詰もガード役として気合が入る。ともに着はまらめているのでラインで上位独占は有望だ。

片岡迪之、上野雅彦、原田研太郎の機動型に、渡部哲男、木村隆弘、湊聖一ら中部国勢も戦力は整っている。中でも上野は4月の川崎記念、5月平塚記念で準決に進出したのははじめ連対数を増やしてパワーアップ頭著だ。片岡も5月玉野では渡部とワンツーを決めて準Vと、前で駆けた今村麟の頑張りを見せなかった。走りを見せたい。もちろん、タテ攻撃の破壊力も健在なので怖い存在だろう。

3月当所G3で決勝に乗り、その後も5月奈良①①③着など好走している中井俊亮、元砂勇雪の奈良コンビも近畿の自力型が勝ち上がって出番。

4月高知記念では①①着で準決に勝ち上がるなど山賀雅仁もまだまだ一発の魅力に陰りは見られない。河村雅章も山本勝利や堀江省吾との連係が叶えば。

Main rider profile table with columns for rider name, registration, race class, and performance statistics. Includes a 'Main Rider Profile' section and a '12-month performance' chart.

BNR 大阪・関西万博協賛 出場予定選手 ※2025年06月02日現在. Table listing all participating riders with their names, registration details, and race results.

築田 一輝 (静岡/107期)

セッティングを見直して動きが良化してきて4月静岡、5月京王閣はともに決勝3着。しっかり位置を取って勝負する自力自在戦を身上にしぶといところをみせていて、脚力伯仲のシリーズは望むところだろう。一発に注意。



中西 大 (和歌山/107期)

5月弥彦では①②⑦着。初日特選は先行覚悟で前に出たところを叩かれたが、俊敏に立ち回っていたし、準決は好調な市橋司らを封じる先行策で粘り込んだ。近畿勢にとっては貴重な大砲で、ラインの浮沈の鍵を握る。



才迫 開 (広島/101期)

2日目からの補充だった5月玉野で連勝するなど同格戦では連絡みが非常に多い。相手に応じて柔軟に立ち回っていて、グレード戦でも存在感を発揮している。準決あたりでは荷が重い、勝ち上がり戦でも軽視は禁物だ。



ガールズケイリン

接戦も村田奈穂を指名



村田 奈穂

直後に控えるパールカップ(G1)出場選手は不在で、競走得点トップが村田奈穂という大混戦。本命にはその村田を推す。体調が整わない中でも高いレベルで成績をまとめていける実力者で、今年もオールガールズと同時に開催された普通開催で優勝している。スピードの乗りが良く力強いまくり基本のタテ脚勝負でV争いの中心になる可能性は高い。

機動力評価なら渡部遥だ。本格デビュー後の優勝は23年11月の前橋と昨年8月の弥彦の2回だけと、あと一歩で優勝に手が届かないレースが続いているものの、強地脚を生かした積極策には定評があり安定感も申し分ない。強力な同型は手薄なシリーズだけに、好機にスパートなれば強靱な踏み直して押し切りは十分だろう。

実績を考えれば中野咲も有力なV候補に挙げられる。自力策を多用してランクを上げていった頃の勢いは薄れたが、変わらずガールズ上位クラスの脚力を保持していて、今年は準V1回、



渡部 遥

決勝3着が5回とまとめている。結果を出して再進撃へのきっかけにしたいところ。

高木佑真も自力自在戦でV戦線に加わってくる。展開次第で先行もあるが、今は集中力高くレースの流れに乗っていく競走が主体になっている。最終的に好位を占めていければ昨年4月久留米以来で4度目のVも見えてくる。

位置取りで勝負を懸けてくるのが元砂七々美、河内桜雪、鈴木彩夏。中でも怖いのが元砂で、連対ラッシュの近況だし、5月奈良で久米詩、吉川美を破って6年ぶりのVも飾ってみせた。まくりも出ているように脚力アップが顕著な河内も連の対象から外せない。近況から初優勝をゲットする場面があってもいい。

そして、注目したいのが伊藤優里、平子結菜の地元ヤング2人だ。先行意欲高く戦う伊藤、何でもありのレースで戦歴アップの平子。ともに伏兵に止まるつもりはないだろう。

得意の前々戦で復調気配の篠崎新純、脚を溜めての強襲が怖い東美月も一発気配が漂う。

選手名	所属	期	最近4ヶ月	選手能力値	戦法別勝利数	12場所勝利数
村田 奈穂	熊本	116期	53.70	41 ● 63 ●	0 4 1 1 1	7 9 7 13
渡部 遥	和歌山	122期	52.83	56 ● 63 ●	7 7 2 0	7 9 8 12
元砂 七々美	奈良	108期	53.59	35 ● 52 ●	0 1 3 10	1 13 9 11
中野 咲	和歌山	110期	52.78	42 ● 60 ●	1 3 3 4	2 9 8 17
高木 佑真	和歌山	116期	51.78	38 ● 51 ●	3 2 2 4	3 9 9 15
河内 桜雪	和歌山	122期	53.47	34 ● 49 ●	0 2 4 10	3 13 4 15
鈴木 彩夏	熊本	110期	52.13	13 ● 12 ●	0 0 3 9	3 9 12 12

